



南種子町立西野小学校
学校だより 12月号
<http://m-nishino.sakura.ne.jp>

「西野っ子の素敵」を継ぐ

校長 霜田 さおり

いよいよ年末となりました。今年は、子供たちの大きな事故もなく、無事に今日を迎えられたことをありがたく思います。日頃から、子供たちの見守りをしていただきましてありがとうございます。子供たちも、日々の学びと大きな行事等を通して、大きく成長しました。その成長の一部は、子供たち同士の会話の中にも表れます。その一場面に、こんなことがありました。

本校では清掃活動や遠足など、学年を4グループに分けた縦割り活動を取り入れています。

ある清掃時間のときでした。私は、教室掃除担当の3人に、教室にだけある掃除道具を貸してほしいと言いました。すぐに、高学年の児童が、「いいですよ」と応えたのですが、その直後、意外にも、低学年の児童が、自分たちが使うかもしれないから貸せないと言ったのです。すぐさま、先程の高学年の児童が、「今日は、〇〇をお掃除するから、大丈夫だよ」とやさしく語りかけました。視線を合わせながら、しっかりと理由を付けて、分かりやすく説明している姿に、私は、感心しました。ところが、相手は、なかなか納得しません。高学年の児童は、言葉を変えながら、実に粘り強く説明を続けていました。すると、二人の様子を見守っていた中学年の児童が、高学年をサポートする言葉をかけたのです。もし、使うときは、言えいいからねと。二人の言葉に、低学年児童が、「じゃあ、いいか」と納得の笑顔を浮かべたことで、私は無事、掃除道具を借りることができました。実に見事な展開。

この3人のやりとりに、私は、子供の成長過程と、異年齢で活動するよさを改めて実感しました。

ともすれば、日常の小さな問題解決の過程において、「もう、いいから」という短いことばで片付けてしまいがちなのです。しかし、相手の年齢や状況に合わせて言葉を吟味し、自分の言葉に対する相手の表情や様子をくみ取りながら、ポジティブな言葉で粘り強く合意を図っていくスキルと思いやりは、年長者から年少者へ、日々のやりとりの中で育まれていきます。この「西野っ子の素敵」に子供自身が気づき、意識的に継いでいくためには、私たち大人が、その場面に気づき、称賛していくことが大切ではないかと思ひます。

いよいよ冬休みです。子供たちは、学校を離れて、地域で過ごす時間が長くなります。それぞれの子供たちがもつ「素敵」に出会ったとき、温かい声を掛けていただけるとありがたいです。

ありがとうございます

鹿児島ユナイテッドFCさんから、サッカーボール5個いただきました。届いた翌日から、子供たちは、「いつから使えるか」と目を輝かせていました。本校に送られた経緯は公式Youtubeで。



最後まで走り抜いた 持久走大会

12月7日(水)、校内持久走大会が行われました。子供たちは昨年よりも学年が一つずつ上がり、走る距離も長くなります。きつくても途中で諦めることなく、ゴール目指して走ります。

沿道からかけられる保護者・地域の皆さんの声援は、子供たちにとって大きな力となりました。出場した子供全員が完走することができました。

また、6年生の部(1500m)では、森花実さんが校内新記録を樹立しました。おめでとうございます。



“人権”について考えた

11月28日～12月10日は「校内人権旬間」でした。この期間は、子供たちが「人権」に関して考える学習の機会となります。

特に12月1日(木)に行われた「人権教室」は、全校そろって考える場となりました。一人一人が作った人権標語を披露したり、学級ごとに人権をテーマとした発表を行ったりしました。

自他の人権を尊重することについては、これからも常に意識させていきたいと思ひます。



芸術に親しむ

文化庁の芸術家派遣事業に申し込み、芸術家の方から直接指導していただく機会を得ました。

まずは11月21日(月)、彫刻家の神戸峰男先生に岐阜県からお越しいただき、粘土による制作活動を行いました。

また、12月8日(木)にはリズムコミュニケーションの森田孝一郎先生に鹿児島市よりお越しいただき、ドラムサークルの音楽活動を行いました。

どちらの先生も子供の自由な発想を大切にしてくださり、子供たちは夢中になって活動に取り組んでいました。



門松作り ありがとうございました

12月18日(日)の門松作りには、PTAの皆様から多大な御協力をいただき、立派な門松を飾ることができました。また、子供たちにとっても、伝統文化を学ぶよい機会となりました。完成した門松の迫力に、驚きや感動の表情を浮かべる子供の様子も見られました。

